

国際ロータリー第2770地区
第11グループ



川口 RC
Weekly Report

No. 24

● 定例会
第2928回
2020年2月6日配布

● 事務局
〒332-0012 川口市本町 1-18-5 NTTビル1F
TEL 048-222-0124 FAX 048-222-0118
http://www.kawaguchi-rc.com
E-mail krc2770@plum.plala.or.jp



2019-20年度
会長：渡部 行光
幹事：平田 修一

Topics & Information

● 派遣学生月例報告書 1 月分

派遣学生の齊藤美幸さんから月例報告が届きました。

1) 健康状態:

今月も特に風邪などは引かず体の状態は万全でした。ですがなぜか心が安定しないことが多く学校のストレスから急に涙がでることが多かったです。ストレスからくる突然の腹痛が少し見られましたが、現在は落ち着き、安定しています。そして脂肪が増えました。(太りました。)

2) 通学・勉学状況:

私の通っている学校の留学生は自分が学びたい教科を7教科選択します。他の生徒達が16教科あるのに対し7教科は他の生徒と半分の時間も一緒に過ごせません。私が選択していない授業の時は大広間で学校から支給されたドイツ語ワークを一人で勉強をしていました。毎日空きコマが大半を占める私の時間割は私が教室にほとんどいないため他のクラスメイトとの距離は中々縮めるのが難しかったです。また多い時は5時間続けてある空き時間、いつも他の子は授業なので一人でいる事しか出来ず、いつも孤独を感じて居ました。最初は寂しく、一人ということに違和感を感じていましたが、「こんなものなのかも」と、一人でいることに慣れるよう言い聞かせていました。でもやっぱりずっと一人は寂しく、先日私の中で溜まっていた何かが爆発し学校で涙が止まらなくなりました。学校の先生に「もうこれ以上学校に居たくない、何も楽しくない」と泣きながら訴えました。学校側は対策を練ると言ってくれていたものの全く変化が見られず、このままあと半年過ごしても何も変わらないだろうと思い「転校」することにしました。

3) 家庭生活:

今月の初めにホストチェンジが行われました。第一ホストファミリーとの別れはかなり名残惜しいものでした。ですが、次のホストファミリーとは家が近く車で5分の距離です。会おうと思えばいつでも会える距離と思っていたのですが中々会えません…。新しいホストファミリーもとても優しく、いつも私を助けてくれます。学校のことで悩み相談した時も、「じゃあ、一緒に新しい学校探しに行こう!」と言ってくれました。私がやりたいと言っていたダンスも探してくれたり、一緒に悩んでくれたり、私の良き理解者でいてくれます。ホストマザーはチェコ人ですが、もうこちらで30年も過ごしているため、ドイツ語がとても流暢です。そんな彼女もかつてはドイツ語を勉強し習得したので、私のドイツ語勉強のアドバイスや気持ちをわかってくれます。今回も私はホストファミリーに恵まれました。彼らと残りの留学生生活をともにするのが楽しみです。

4) ロータリーの行事参加:

今月は地区の行事がありませんでしたが、新しくオーストラリアからの留学生が私のホストロータリークラブにきました。彼らを迎えに空港に行った時は彼らのぎこちない初々しさが半年前の自分と重なりました。

5) その他:

今月から2020年が始まりました。こちらのお正月は日本のお正月からは想像出来ないほどあっけなく終わってしまいました。大晦日はヨーロッパの伝統のお笑い番組を見ました(毎年同じで白黒のテレビ)大晦日の長い夜はゆっくりとした食事をするための特別な長く食べれる伝統料理が並び、年明けは家の周り全部で花火が上がっていました。みんなで外に出てその花火を見ながら大人たちはシャンパンを子供達はジュースを片手に乾杯します。日本のお正月が恋しくてたまりませんでした。きっと今年しか体験できないヨーロッパのお正月はとても新鮮でした。残りの冬休みは第一ホストファミリーとドイツを訪問しました。故郷がフランスとスイスに近いドイツの南に位置する、フライブルクなのですが車で家から12時間もかかりました。従兄弟や再従兄弟、おじちゃんにお婆ちゃん親戚にたくさん会うことが出来ました。特にお爺ちゃん、お婆ちゃんは優しくいろんなケーキやご飯を一緒に作りました。たったの3日でしたがとても濃い思い出です。また学校については校長先生と沢山お話をさせていただき、ホストロータリークラブの方々にも了承を頂きました。校長先生がとても良心的な方で、「新しい校長先生に電話しておくね」と言ってくださいました。残りの半分の留学生活もう言語面で悩む事はほぼ無くなりました。あとはこの残された時間をいかに楽しめるように自分を変えて行くかが今後のカギになると思います。



次回予定 2月13日 定例会
会場/そごう川口店ダリアルーム
点鐘/12:30

卓話: 東京築地RC 二神典子 様

次々回予定 2月22日 インターシティミーティング
会場/フレンジア
受付/12:00~ 開会/13:00

★新会員紹介がありますので
新会員は必ずご参加下さい
★対象新会員: 2019年2月以降入会の方
※2月20日は休会になります。

あいさつ

渡部 行光

新型コロナウイルスは拡大して、非常に大きな影響を及ぼしています。このウイルスの性格などはまだ明確になっていませんが、最初感染力が弱いと言っていたのですが、このように広がるとそうとも言えません。最初は市場の蝙蝠から始まったということで、ちょっと気持ち悪いのですが、飛沫感染ではないかと言われていますが、とにかく春節とかあって、人の交流が濃密になり、特に中国からの渡航者もこの日本に大勢いるわけで、たいへん心配です。とくに西川口地域には中国人も大勢いますし、武漢からの来日者もいるのではないのでしょうか。よく言われていますが、「正しく恐れる」ことが大事なのでしょう。これからこの病気の性格もだんだんわかってくるでしょうし、いずれワクチンも開発されるでしょう。今は、とにかく、うがい、手洗い、アルコール消毒をまめにするしかありませんね。これはインフルエンザも風邪もひかないように体に気を付けていただきたいと思います。



武漢市を封鎖したということですが、疫病で都市を封鎖することはめったにないそうです。それがあったのが、1916年6月のポリオ感染の流行したニューヨークでした。その年には、アメリカ合衆国で2万7000を超えるポリオの症例が発生し、6000人が死亡したそうです。ニューヨークだけでも死者は2000人を超えました。ポリオと確認された人物の名前と住所は日ごとに新聞で公開され、彼らの住居はプラカードで示され家族は隔離されました。映画館は閉鎖され、会合は中止され、集会はほぼなくなりました。子供たちは水飲み場の水を飲まないよう警告され、遊園地やプール、海水浴場へ行かないように言われました。1916年以降、夏ごとに国内のどこかでポリオの流行が出現し、1940年代と1950年代が最も深刻だったようです。そして、1950年代にポリオワクチンが開発され先進国では徐々に少なくなりました。

ロータリーがこのポリオ根絶のための支援を始めたのが、1979年9月、フィリピンにある保健センターで、児童への経口ポリオワクチン投与が行われました。当時のジェームス L. ボーマー会長が最初のワクチンを子どもに投与し、フィリピンのポリオ予防接種活動を開始しました。

どんな疫病も最初拡大して、終息して、その対策を開発して、無くなっていくわけですが、人類はその繰り返しをしてきました。人類の感染症との戦いも、たぶんこれからも同様の経過をしていくでしょう。やはり、最初の拡大を抑えることが重要だと思います。